

男性スポーツファッションにおける変動について —2012年～2015年の男性ストリートファッションに着目して—

八幡茉莉子・渡辺明日香

The Analysis of Transition in Men's Sport Style Focusing on Men's Street Fashion in 2012 to 2015

Mariko YAHATA and Asuka WATANABE

In Harajuku, Tokyo's leading fashion district, we took a series of photographs, using as subjects young men ranging in age from their teens to their twenties. On the basis of the data collected, we selected 829 subjects adopting sporty fashions in an effort to develop a quantitative understanding of items such as shirts and pants and their fits, bags and shoes, and other clothing and miscellaneous goods including hats. The period of study was about four years, from January 2012 to October 2015.

We have just carried out a study of the results from two points of view: changes caused by the season, and those caused by trends. Tops and bottoms were clearly influenced by changes in season, with changes in item type, materials, and length observed. Among accessories and miscellaneous goods, there was no obvious seasonal variation. From the point of view of trend-influenced changes, within the aforementioned period of study, it became evident that there was a growth in fairly wide, natural fits, representing a move away from skinny jeans and other slim fits. Also, colored patterns were appearing with decreasing frequency, and there was a distinct increase in plain, monochromatic items. Overall, there is an increasing tendency to prefer simple styles. We were able to gain a qualitative understanding of one aspect of the fashion sense of present-day young men, who seek to incorporate just enough of the latest fad into their style.

キーワード：ストリートファッション street fashion, スポーツスタイル sports style

I. はじめに

2012年頃から2015年現在にかけてスポーツアイテムを取り入れたスポーツファッションが流行している。スポーツファッションは図15～図23のようにスニーカーやキャップ、パーカー、スウェットといった本来ではスポーツをする際に着用するアイテムをカジュアルアイテムと合わせて街着として着用している特徴がある。

スポーツをベースとしたスタイルは1990年代に流行している。渡辺明日香著『ストリートファッション論』では「大通りを避けるように、路地裏や奥地に店舗を構える店が登場し、原宿では裏原系と呼ばれるファッションのジャンルが生まれ、若い男性の熱い支持を得た。(中略) 裏原宿発ファッションの特徴は、グラフィカルなロゴやイラストが描かれたサイズの大きめのTシャツやパーカー、ジーンズやカーゴパ

ンツ、ショートパンツなどを穿き、キャップを被って足元はスニーカーと、スポーツをベースとしたスタイルや、ライダージャケット、ボンテージパンツ、ラバーソールのシューズなどのパンク調のスタイルであった。それらは小ロットで量産しないために、新作の売出し日などには、口コミやネット情報を頼りに、開店前にファンがショッパに並ぶ光景も珍しくなかった。」と書かれている。

アクロス編集室編『流行観測96-97』では、当時のスポーツファッションについて「古着のパーカーやトレーナー、ウィンドブレーカー、レーベルやミュージシャンのロゴをプリントしただけのフツのTシャツ+ジーンズスタイルに帽子を深く被ってレコードバッグを持つ、という“外に出たオタク”のようなスタイルだ。わかりやすい例がコーネリアスの小山田圭吾くんスタイル。」と書かれている。

以上のように、90年代のスポーツファッションは一部のコアなファッションマニアから支持されたファッションムーブメントであることが読み取れる。

一方、2010年代以降のスポーツファッションは、様々なファッションテイストの垣根を越えて街に出現している点にあり、ここまで拡大したファッションは、ストリートファッション史上、初めてのことで考えられるため、スポーツファッションの流行について興味をもった。

そこで本論では、2012年1月から2015年10月の約4年間のストリートファッションの定点観測写真を基に、スポーツファッションのトップスとボトム、服飾雑貨の数量的把握を試みた。

Ⅱ. 調査方法

2-1. ストリートファッション写真によるスポーツファッションの分類

各月の晴れた日の火曜日の13時～16時の時間帯に原宿で定点調査を行った。同時に10代から20代の若い男性を対象にした写真を撮影し、この写真の被写体からスポーツファッションをしている男性を抽出し分類した。このときのスポーツファッションの条件は、パーカー、スウェット、ビックシルエットのTシャツ（以下、ビックTシャツ）、スウェットパンツ、ブルゾン、リュック、スニーカー、スポーツサンダル、ニット帽、キャップ、バケットハットなど、表1で示すスポーツアイテムを、少なくとも2種類以上、身につけている被写体写真をスポーツフ

表1 ファッションアイテム

トップス	パーカー、スウェット、 ビックTシャツ、Tシャツ、 シャツ、ニット
ボトム	ショート丈、クロップド丈、 フルレングス丈
	スキニー、ストレート、 ワイド
靴	スニーカー、スポーツサンダル、 革靴、ブーツ
バッグ	リュック、トートバッグ、 ショルダーバッグ、クラッチ バッグ、ボストンバッグ
アイウェア、 帽子	サングラス、眼鏡、ニット帽、 キャップ、バケットハット、 ハット

表2 スポーツファッションの月別人数 (合計 829人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012年	2	5	6	6	3	5	9	6	3	7	14	12
2013年	10	7	11	25	29	21	18	16	12	17	33	20
2014年	27	40	18	21	13	28	15	18	21	24	22	32
2015年	23	22	22	34	31	17	21	31	23	29	-	-

男性スポーツファッションにおける変動について

ファッションとして抽出し、着用しているアイテムの集計を行った。

バケットハットはエクストリームスポーツ、ビックTシャツはバスケットボールのウェアに関係するため、スポーツアイテムとした。被写体数は、829人であり、各月のスポーツファッションをしていた人数は表2の通りである。

Ⅲ. 調査結果および考察

3-1. 季節変動

3-1-1. トップスの月別推移の割合

2-1で行った集計結果について、気温や季節の変化によってアイテムに違いがみられることから、これを季節変動要因とし、こうした自然現象に基づく推移ではない推移については、トレンド要因として考察をおこなった。季節変動の影響を調べるために、表3に示すように、月別の最高気温のデータ¹⁾をもとに、考察をおこなった。

トップスの出現率を月毎に割合を出した（図1～図3）ところ、長袖のTシャツと半袖のTシャツもしくは半袖のTシャツ2枚をレイヤードしているスタイリングが散見されたため、これらのスタイリングはTシャツレイヤードの項目とし、一番上に来ているTシャツをTシャツの項目にカウントした。シャツは腰や肩に巻きつけるスタイリングが散見されたため、このスタイリングはシャツの項目とし、更にシャツ巻きの項目にカウントした。

ここで調査期間内の月毎の変動を見てみると、パーカーとスウェットは9月から増加し、4月から減少するという季節変動が見られた。Tシャツレイヤードは4月から8月にかけて出現している。ビックTシャツは3月から11月にか

て出現しており、6月から9月に増加する季節変動が見られ、やや増減があるものの漸増している。Tシャツは4月から増加し、10月以降は減少する季節変動がみられた。シャツは9月から増加し、6月以降は減少する季節変動がみられ、緩やかに減少傾向がみられた。シャツ巻きのスタイリングは3月から12月にかけて出現していた。ニットは11月から増加し、2月以降は減少する季節変動がみられた。

3-1-2. ボトムの月別推移の割合

ボトムの出現率についても同様に、月毎に割合を出した（図4～図5）。ボトムの丈の割合（図4）をみると、フルレングス丈は10月から増加し、5月以降は減少する季節変動が見られた。ハーフ丈は5月から増加し、9月以降は減少する季節変動が見られた。特に7月から8月にかけて急激に出現率の上昇を示し、フルレングス丈より出現率が高い。2015年7月は71.4%がハーフ丈を着用しており2012年から2014年までを比較すると急激な着用率の上昇を示した。クロップド丈は季節を問わず出現しているが、2012年9月以降は10%を満たない出現率となっている。

ボトムのシルエットの割合（図5）では、ストレートはベーシックな形であることもあり、増減はあるものの40%以上の出現率を示した。2012年と2013年は9月から翌1月まで減少する季節変動と思われる値がでているが、2014年以降は漸増している。スキニーは7月から8月にかけて減少する季節変動があり、2012年12月をピークに減少傾向にある。ワイドシルエットは7月から9月に上昇する季節変動がみられた。これは2012年から2015年にかけて、ハーフパンツはワイドシルエットが多く出現していたため

表3 東京 日最高気温の月平均値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012年	8.3	9.1	12.5	18.5	23.6	24.8	30.1	33.1	29.8	23.0	16.3	11.2
2013年	9.6	10.3	16.4	19.2	24.1	26.5	31.4	33.2	28.8	23.0	17.4	12.1
2014年	10.6	9.8	14.5	19.6	24.7	26.9	30.5	31.2	26.9	23.0	17.4	11
2015年	10.4	10.4	15.5	19.3	26.4	26.4	30.1	30.5	26.4	22.7	-	-

である。

3-1-3. 靴の月別推移の割合

靴の出現率(図6)では、スニーカーは2012年4月以降70%以上の出現率となっており、ほとんどのスポーツファッションにスニーカーが取り入れられていることが分かる。2015年5月から2015年9月に若干の減少があるが、これは、スポーツサンダルが出現したためである。スポーツサンダルは5月から9月に出現する季節変動がみられたが、その他のアイテムは季節を問わず出現しており、季節変動はみられなかった。

3-1-4. バッグの月別推移の割合

バッグの出現率(図7)では、リュックは増減があるものの漸増している。トートバッグは2013年に増加したが、2014年以降は減少傾向である。ショルダーバッグは2012年に増加し2013年3月以降減少したが、2014年1月から再出現している。明確な季節変動はみられなかった。

3-1-5. アイウェア、帽子の月別推移の割合

アイウェア、帽子の年単位の割合をみると(図8)、ニット帽は10月から2月、サングラスやキャップ、バケットハットは7月から9月に増加する傾向はあるものの、通年で出現しており、はっきりとした季節変動はみられない。サングラスは2013年以降減少傾向である。メガネは2014年以降減少傾向である。ニット帽とキャップは2013年以降減少傾向である。バケットハットは2013年6月に出現し、2014年3月から9月にかけて増加し、以降は減少傾向である。ハットは2014年以降増加傾向にあり、4月から9月に増加している。

3-2.トレンド変動

更に季節変動以外の変化を見出すために、年単位のアイテムの割合を出し、調査期間全体でどのような推移がみられるのか検討した(図9～図14)。ここでは、季節変動とは異なる変動を、トレンド要因と仮定し、年単位でどのように増減しているのかを把握した。なお、シーズン毎の変化を見るため、4月から翌3月の期間で区切り割合を出した。例えば、以下で述べる

2012年は2012年4月から2013年3月のデータを意味している。

3-2-1. トップスのトレンド変動

トップスの年単位の割合を出した(図9)。パーカーの割合を調べた結果、2012年は14.3%、2013年は14.3%、2014年は12.4%、2015年は3.9%となり、減少傾向が見られた。割合の高い2012年から2013年は、アイビーティストを取り入れたスポーツファッションが出現しており、パーカーのインナーにシャツを着て、シャツの衿や裾を見せる重ね着や、チェスターフィールドコートとパーカーをあわせるスタイル(図15)が流行していた。

スウェットの割合は、2012年は7.6%、2013年は10.0%、2014年は9.9%、2015年は5.9%となり、2013年4月から2015年3月にかけて増加傾向にあったが、2015年4月以降は減少傾向にある。構成率の高い2013年4月から2015年3月は、ビックシルエットのスウェットにスキニーパンツを合わせてトップスはボリュームをもたせ、ボトムはスリムにするスタイリングがみられた(図16)。

パーカーとスウェットはストリートスポーツブランドの「シュプリーム」や「ストウシー」、スポーツブランドの「アディダス」、「チャンピオン」、「ナイキ」のものが多く見られたが、それらのデザインはブランドを主張するデザインではなく、小さくブランドロゴがプリントされたものや、小さなブランドマークのワッペンを胸元もしくは袖につけたシンプルなデザインであった。

ビックTシャツの割合は、2012年は9.5%、2013年は5.8%、2014年は8.0%、2015年は21.6%となり、2015年に急激に増加している。ビックTシャツはインナーにTシャツを着るTシャツレイヤードのスタイルが出現している。インナーに合わせるTシャツは五分丈袖や半袖が多く、袖口や裾から数センチだけ重ねたインナーを見せるスタイリングがみられた。袖口をロールアップするスタイリングもみられた。

Tシャツの割合は、2012年は21.9%、2013年は26.4%、2014年は33.9%、2015年は48.5%となり、2014年4月以降に増加傾向が見られた。2013年はアメリカンコミックなどのポップな雰囲気を感じさせるカラフルなデザインのTシャツが出現していたのに対し（図17）、2014年4月以降は無地のTシャツが多く出現している（図18）。

シャツの割合は、2012年は35.2%、2013年は30.4%、2014年は27.7%、2015年は18.6%となり、2014年4月以降減少傾向にある。

ニットの割合は、2012年は11.4%、2013年は13.1%、2014年は6.9%、2015年は1.5%となり、2013年は増加傾向、2014年4月以降は減少傾向にある。シャツとニットの構成率の高い2012年4月から2014年3月は普通の服を普通に、きちんと着るパナル・シックが出現していた。パナル・シックとは文化出版局編『ファッション辞典』では「パナルは〈陳腐な、平凡な〉の意で、ごく普通っぽい、粋でおしゃれな感覚のこと。とくにシンプルで気やすい服をさすという。カットや素材、着心地など服の本質的な価値を追求する流れの中から生み出されたもの。」と書かれている。スポーツスタイルにもパナル・シックが取り入れられており、ベーシックなシャツとニットを重ね着し、シャツの衿を首元から見せるスタイリングが見られた（図19）。シャツはダンガリー素材やシャンブレー素材のナチュラルな雰囲気のあるものが人気を集め、Tシャツと合わせてシャツを羽織るスタイリングもみられた。

以上の結果により、アイテム構成はシャツやニットからTシャツやスウェットへの移行が見られた。写真を見てみると、Tシャツやスウェットのデザインは当初はカラフルなデザインが出現していたが、無地でモノトーンのデザインへ移行がみられる。スポーツファッションはよりカジュアルでシンプルなスタイルに移行していることが分かった。2015年のビックシルエットの構成が急上昇したことから、トップスのシ

ルエットにおいて、より大きなものが支持されてきていることが分かった。

3-2-2 ボトムスのトレンド変動

ボトムスの年単位のアイテムの割合を出した（図10、図11）。ボトムズの割合をみると（図10）、ハーフ丈の割合は、2014年は16.5%、2015年は23.2%となり、図4の月単位の変化でも確認できたが、2015年はハーフ丈が増加していることが分かる。このシーズンではスポーツサンダルが登場し、ハーフパンツと合わせるスタイリングが出現した（図20）。スポーツサンダルは靴下と合わせるスタイリングが流行したが、この組み合わせとハーフパンツは相性が良かったため、ハーフパンツの割合の上昇を加速させたと考えられる。フル丈の割合は、2014年は82.4%、2015年は74.6%となり、2015年は減少傾向にある。これはハーフ丈の増加に伴い、フル丈が減少したと考えられる。

ボトムシルエットの割合をみると（図11）、スキニーの割合は、2012年は38.2%、2013年は29.3%、2014年は27.5%、2015年は14.4%と減少傾向がみられた。ストレートの割合は、2012年は56.2%、2013年は62.4%、2014年は65.9%、2015年は72.9%となり、増加傾向がみられた。ビックシルエットのTシャツと合わせて全体的にボリュームのあるスタイリング（図21）や、ジャストサイズのトップスと合わせて敢えて普通に着るスタイリングが見られた。裾をロールアップして靴下を見せるスタイリングも散見された（図22）。

ワイドは、2012年は5.6%、2013年は8.4%、2014年は6.7%、2015年は12.7%と増加傾向がみられた。ワイドシルエットはハーフパンツで出現していることが多く、ジャストサイズのTシャツとあわせて、シルエットにメリハリをつけたスタイリングや、ビックシルエットのTシャツとあわせてボリュームのあるスタイリングが出現していた（図20）。

3-2-3 靴のトレンド変動

靴の年単位のアイテム割合（図12）では、ス

ニーカーを見てみると、2014年と2015年の約2シーズンは90%以上の出現率であり、圧倒的な割合を示している。スポーツサンダルでは、2013年に0.4%、2014年は確認できず2015年に6.5%となり、2015年に突発的に流行したアイテムであることが分かる。2015年はスニーカーとスポーツサンダルを合わせると、97.4%が靴もスポーツテイストである。スポーツファッションと靴は関係性が高いことが推測される。

3-2-4. バッグのトレンド変動

バッグの年単位のアイテム割合を出した(図13)。リュックは2014年、2015年の約2シーズンは80%以上の出現率となっている。図20の様にバックパッカーが背負う様な大きなサイズのデザインが流行している。「ノースフェイス」、「ニクソン」、「フォールラーベン」、「パタゴニア」、「グレゴリー」といったアウトドアスポーツブランドのリュックが多くみられた。

トートバッグは2013年の15.0%以降減少傾向である。キャンパス地のトートバッグは、2000年頃の出現当初は女性が主に持っていたが、やがて、男性にもトートバッグが浸透していき、2010年代初頭には、男性トートの流行があったためである。ショルダーバッグは2013年に一度減少したが、以降増加傾向にある。また、「マンハッタンポーター」や「ヘッドポーター」といったブランドのスポーティなデザインのボディバッグが散見された。

クラッチバッグは当初街の様子を見た時点ではスポーツファッションのなかで多く出現している印象であったが、実際に集計をしてみると出現の多い2015年でも5.7%と予想より少ない結果が出た。スポーツスタイルに含まれない、モード系スタイルでのクラッチバッグ所持者が多かったということもあるが、流行していると言われているものがいかに目にとまり印象に残るものであるかを改めて実感することができた。

3-2-5. アイウェア、帽子のトレンド変動

アイウェア、帽子の年単位のアイテム割合を出した(図14)。サングラス、メガネの割合は

増減があるものの全体の1割程を維持している。サングラス、メガネはウェリントン型、丸型、黒ブチといったレトロなデザインのものが多く見られ、目にかけるだけでなく、ニット帽に掛けたり、Tシャツの衿ぐりに引っ掛けたりとアクセサリー感覚で身に付ける傾向がみられた。

ニット帽は2013年に33.3%出現しているが、以降減少傾向である。ニット帽は浅く被りニット帽にゆとりを持たせる傾向がみられた(図15)。キャップは2012年から30%台を保っており、高い割合である。ツバを正面に向けるだけでなく、横側や後側にして被るなどシーズンによって被り方に傾向がみられた(図16~図19)。バケットハットの割合は、2013年は2.9%、2014年は12.2%、2015年は10.9%となり、2014年以降増加傾向である。ハットの割合は、2013年は2.3%、2014年は9.0%、2015年は9.4%と図8でも確認できたが増加傾向である。多くみられるデザインはフェルトでできたツバの広いロングブリムハットである。図21の様に無地のTシャツとパンツのシンプルなスタイリングにポイントとして身につけている。

図8ではアイウェア、帽子の割合は、減少傾向にあるが、その内訳をみてみると、種類が徐々に増加していることが分かった。集計項目には含まれないが、スケートボードを小脇に抱えて街を歩く若者の姿もみられ(図23)、スケートボードそのものもファッションアイテムとなりうる状況となっている。

IV. まとめ

本稿では、スポーツファッションのトップスとボトム、服飾雑貨の数量的把握を試みた、これらの結果を、季節変動要因とトレンド要因の二つの視点で考察を行った。

トップスとボトムについては、東京の日最高気温の月平均値(表3)をみてみると、トップスとボトムのアイテムの変動が多く出現した4月、9月は前月の平均値と比較し4℃以上の気温の上昇または下降がみられた。明らかに季節

変動の影響を受けており、アイテムや素材、丈の変化が認められた。

一方、服飾雑貨はあまり季節変動がみられなかった。キャップやバケットハット、サングラスの夏の日差しを避けるため、ニット帽の冬の寒さを防ぐためといった本来の目的とは関係なく、ファッションとして帽子やサングラスが身につけられているということが分かった。リュックはボリュームのあるリュックを背負うことで、シルエットに変化をつけることができるといった装飾性を見ることができる。これらはトップスとパンツのデザインがベーシックであることが背景となっている。着こなし方や服飾雑貨が本来の機能を超えてスタイリングを決める重要な存在であると考えられる。

トレンド要因の観点からみると、スポーツファッションはアイテム構成やシルエット、アイテムの着こなし方が緩やかに変化しつつ浸透しており、2015年現在はトップスとパンツは共にシルエットが大きくなる傾向にあることが分かった。消費者の購買意欲をかきたてるために、雑誌や店頭では、毎シーズン新しいアイテムを提案しているものの、その提案通りに、新しいアイテムがシーズン毎に出現する傾向はあまりみられず、実際のストリートファッションでは、アイテムの変動は緩やかであり、あるシーズンに急浮上するアイテムは稀であることが分かった。

しかしながら、スポーツファッションのスタイリングは、当初は色や柄のあるアイテムが出現していたが、除々にシンプルになっていき、2015年現在は無地でモノトーンのアイテムが多く見られる。色や柄がシンプルになることで流行への意識が高くない人でも何となく流行りを真似することができるため、その割合も拡大していったことが伺える。

メンズノンノ2015年10月号では「やりすぎはカッコ悪い。ベーシック一辺倒にも飽きてきた。〈ちょいモード〉がちょうどいい!」と題し、少しだけトレンドを取り入れるスタイリングを

紹介した特集が組まれているが、今回の調査を通じて程よく流行を取り入れたいと考える現代の若い男性のファッションへの意識を垣間見ることができた。スポーツファッションはシンプルで真似しやすく、目立ちすぎることもないため、ここまで大きく流行したのではないかと考えることができる。スポーツファッションは現在も進行しているファッショントレンドであるため、引き続き観察を継続していきたい。また、本稿では、男性ストリートファッションにみられるスポーツファッションのアイテムの把握を行ったが、他のスタイルとの違いや出現率の特徴など、より広角な検討も重ねていきたい。

注

- 1) 日最高気温の平均値は、気象庁『東京 日最高気温の月平均値』による。http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=44&block_no=47662&year=&month=&day=&view=a2 (2015.12.3閲覧)

参考文献

- 渡辺明日香著『ストリートファッション論』, 産業能率大学出版部 (2011)
- 城一夫・渡辺直樹・渡辺明日香著『新装改訂版 日本のファッション』, 青幻社 (2014)
- アクロス編集室編『流行観測96-97』, バルコ出版 (1995)
- 文化出版局・文化女子大学教科書部編『ファッション辞典』, 文化出版局 (1999)
- 若月美奈・杉本佳子著『日米英 ファッション用語イラスト事典』, 織研新聞社 (2007)
- 「Men's NONNO (メンズノンノ)」, 集英社 (2012年1月号~2015年11月号 全47誌)

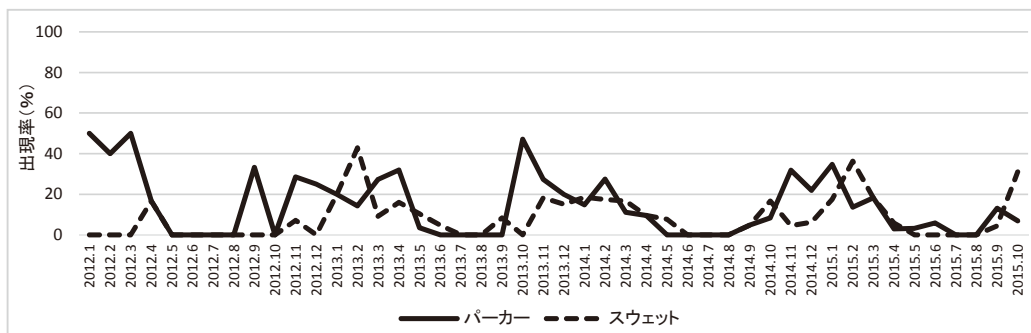


図 1. パーカー、スウェットの月別推移の割合

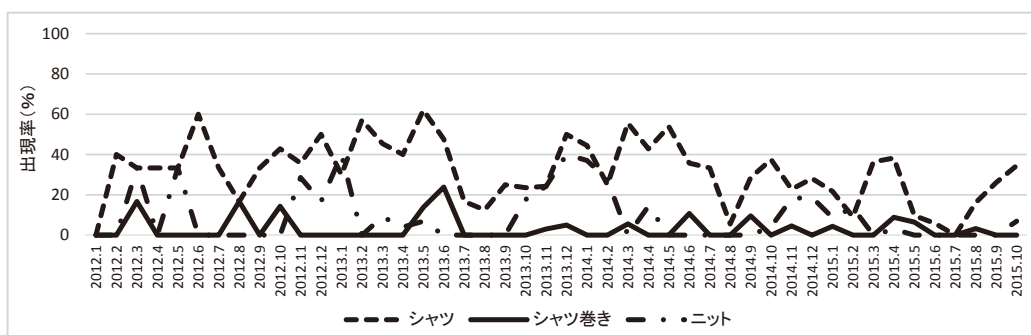


図 2. シャツ、シャツ巻き、ニットの月別推移の割合

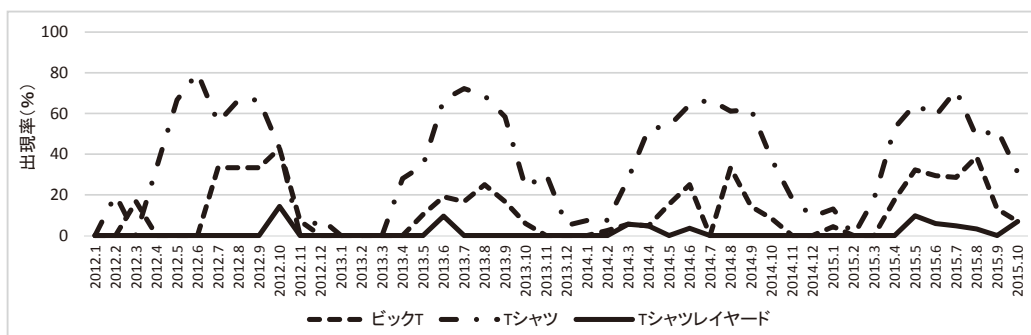


図 3. ビックTシャツ、Tシャツ、Tシャツレイヤードの月別推移の割合

男性スポーツファッションにおける変動について

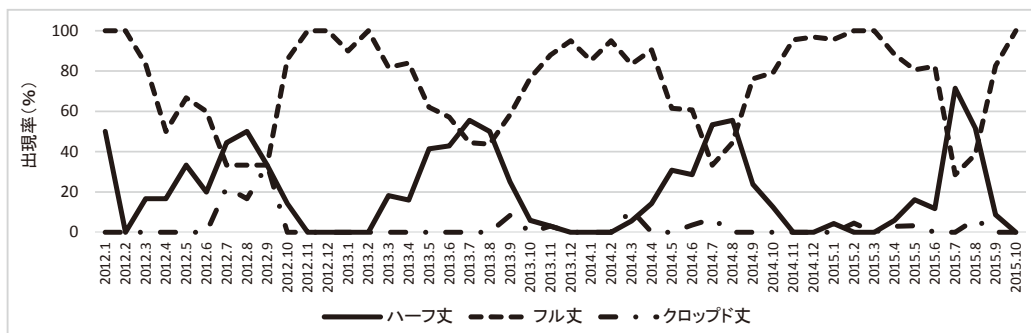


図4. ボトム丈の月別推移の割合

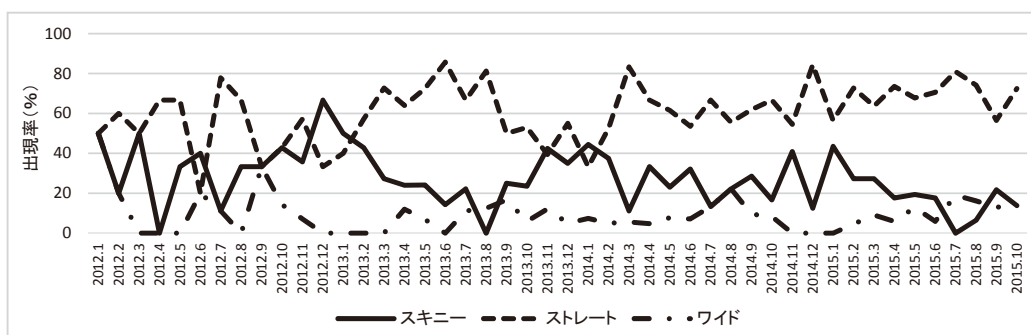


図5. ボトムシルエットの月別推移の割合

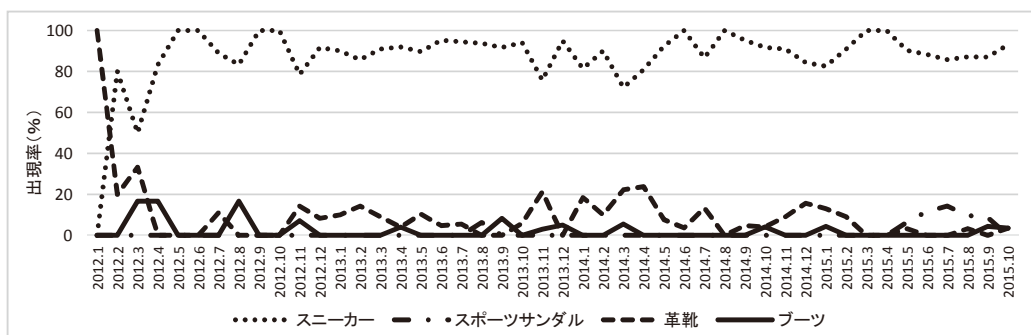


図6. 靴の月別推移の割合

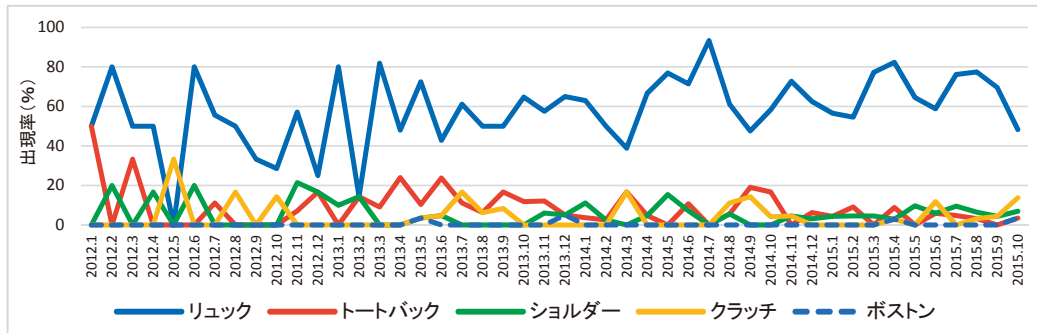


図7. バッグの月別推移の割合

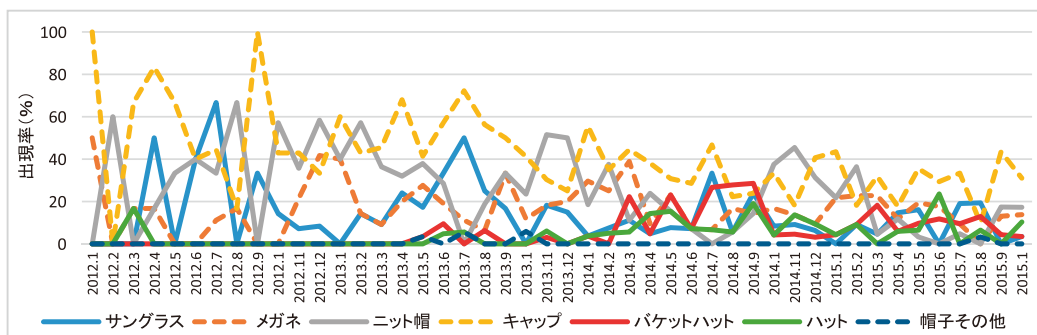


図8. アイウェア、帽子の月別推移の割合

男性スポーツファッションにおける変動について

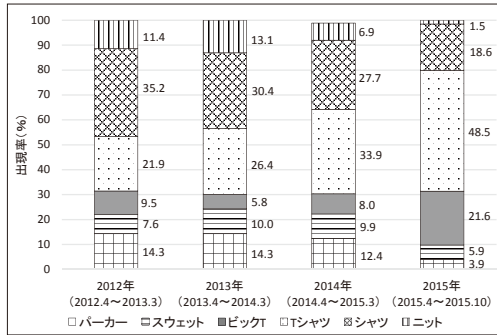


図9. トップスの年単位の割合

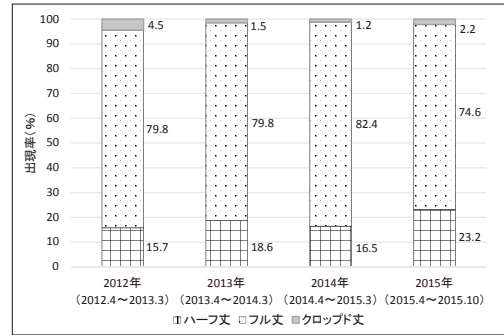


図10. ボトム丈の年単位の割合

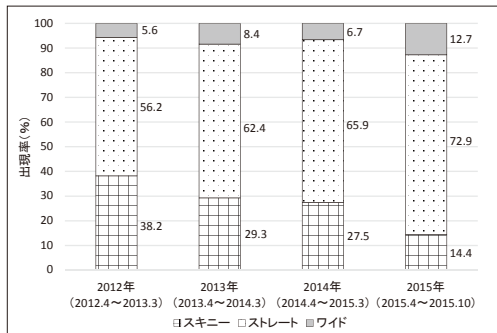


図11. ボトムシルエットの年単位の割合

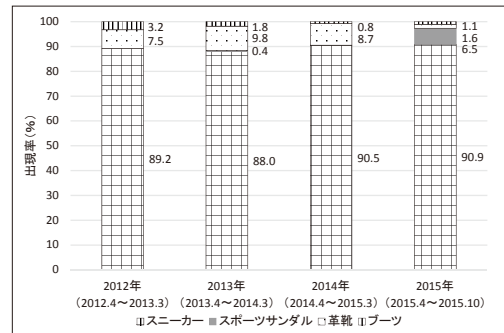


図12. 靴の年単位の割合

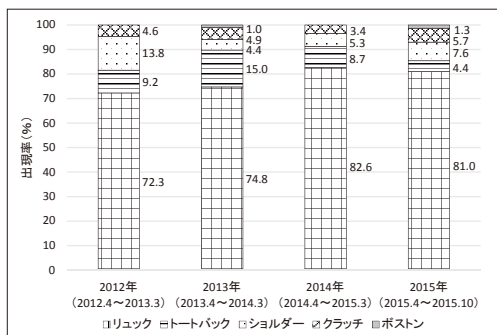


図13. バッグの年単位の割合

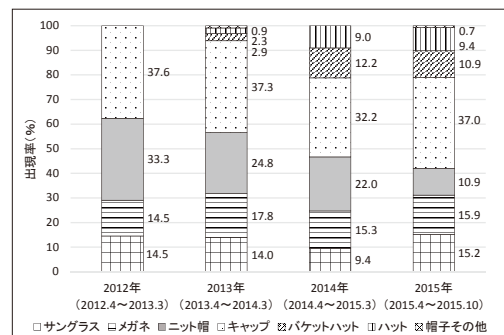


図14. アイウェア、帽子の年単位の割合



図15. 2012年12月 原宿



図16. 2014年11月 原宿



図17. 2013年7月 原宿



図18. 2015年9月 原宿



図19. 2013年1月 原宿



図20. 2015年8月 原宿



図21. 2014年6月 原宿



図22. 2015年2月 原宿



図23. 2012年6月 原宿